

## 「内山牛松が物語る河童の絵」展 好評開催中



5月下旬から始まった「～芥川龍之介の『河童』に魅せられて～内山牛松が物語る河童の絵」展が、ご覧いただいた皆様から好評を得ています。

展示品は主に小説や俳句、短歌などの情景面に河童を登場させている掛け軸や額物ですが、その他に画帳や絵手紙、愛用品などもご覧いただけます。夫婦・家族・子どもが登場する牛松さんの河童は愛嬌があり、観る者の気持ちを温かくさせてくれます。

また、絵もさることながら、私が興味を引いたのは展示品の『河童と言葉集』に書かれている短い言葉です。何となくご本人の人生観が滲み出ているようで、私も共感を覚えめました。此処ではその中の幾つかをご紹介します。

- ・愛は一瞬 恨みは一生
- ・見つけても 直せないのが欠点である
- ・小心者ほど いいわけがうまい
- ・子は親を選べないというが 親だって子を選べない

## 文芸館の四季

文芸館の敷地に入ってすぐの右手に、両側に桜の古木を従え、一歩前に出て生えている木があります。名前は花の形そのままのブラシノキ。そのブラシノキが今年も花を咲かせ、鮮やかな赤色の束が枝を揺らして自己主張をしています。周囲が深緑なだけに、異端児的な雰囲気をも漂わせています。

観察していると、昨年花が咲いた部分の先から、緑色をした、形は穂状で丁度トウモロコシのような粒々が見られます。翌日、その粒々がはじけ、中から何本もの丸まった赤い花糸が表れました。その1本1本が徐々に直線的な糸になっていくのです。思わず蝶の羽化を連想しました。



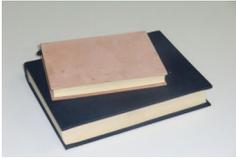
『日本の樹木』(山と溪谷社)によると、「花卉や顎は開花の後すぐに落ち、多数の雄しべが残り、ブラシのように見える」とありました。とすると、私たちが愛でていたのは雄しべの自己主張か……。内気な私は何だか嬉しくなりました。

それにしても、粒をつけた堅い棒が、一夜にして柔らかそうなブラシに変身する様は、まさに魔法のステッキがハンカチーフに代わる手品です。



## お知らせ

○文芸館で主催する講座のうち、6月15日から募集が始まる講座が幾つかありますのでお知らせします。「うら打ち入門講座」・「文章教室Ⅱ」、子供用の講座として「夏休み絵本づくり講座」・「10歳からの少年少女俳句入門講座」です。申込み方法についてはチラシをご覧ください。



## 浜松文学紀行 9

### 井上靖、現・浜松元城小学校に転入

明治40年5月6日、井上靖は陸軍2等軍医だった父の赴任先の北海道旭川で生まれた。翌年の5月、父が朝鮮半島に従軍したため母とともに郷里湯ヶ島に帰った。明治42年12月、父が歩兵第34連隊に赴任、静岡市西草深の閑静で日当たりのよい民家に妻子を呼び寄せた。1年7か月ぶりの親子水入らずの生活だった。まもなく母が懐妊、最初が難産だったのでこんどは大事をとって、一時のつもりで腕白さを増してきた靖を祖母に預けたのであろう。二人は当時祖母かのが暮らしていた土蔵の二階で共同生活を送るようになる。やがて妹静子が生まれた。

翌43年2月から、父が東京の陸軍軍医学校に派遣されることになったため、靖も呼び寄せられて妹弟と一緒に暮らすことになった。一年後、静岡に戻るに際し靖の気持ちも確かめたのであろう、再び郷里の祖母のもとに帰ることになった。二人の幼児を抱えて一番手のかかる時期だったから、「母としてはほんの一時期、急場を凌ぐようなつもりで、私を祖母に託そうという気持ちになったのであろう。」（「幼き日のこと」と靖は振り返っている。

それから大正9年2月、浜松へ転居する直前の祖母の死まで、長編自伝小説「しろばんば」に描かれた血のつながらない二人の奇妙な、しかし愛情に結ばれた共同生活が展開するのである。その後父隼雄は豊橋や朝鮮に赴任する。弟たちの生まれた小学校1年生の一時期と、4年生になる前から6年生の3学期途中まで母や妹弟たちが湯ヶ島に帰ってきた。

6年生になると、中学校の受験準備のため母屋に移った。同年12月20日付で、父隼雄に第15師団歩兵67連隊への転勤と浜松衛戍病院長への栄進の命が下った。

五年の時、私は突然、父の任地の浜松の小学校へ転校することになった。出立の日、雨の中で、私は都会の子供になるために、バスに乗った。その時、見送ってくれた子供たちをバスの中から数えた。六人居たけれどたれとたれであったかいまは忘れてしまっているが、その時、その一人からクレヨンを買った。十二本はいったクレヨンが、私にはひどく立派なものに見えた。（「子供の頃」）

浜松で住んだのは、城址近くの元城町の民家だった。ふみ夫人の話では、

松の木のたくさんある大きな屋敷でした。敷地内には馬もいて、馬丁夫婦の住む別棟があったと、靖より三歳年下の妹から聞いています。

とのこと。靖の通った浜松尋常高等小学校（現・元城小学校）は、連尺から市役所に向かう大手通り<旧元城通り>に面し、正門を入れて右側に男子校、左に妹静子が通った女子校があった。現在リッチモンドホテルが建つ周辺で、小学校としては極めて大規模だった。

転入日は2月17日、靖の新たな生活の第一歩が始まった。

井上靖 1